

2015年度日本陽電子科学会総会の報告

日時: 2015年11月27日(金) 12:15から13:00

場所: 京都大学原子炉実験所 研究棟会議室

議長: 白井 泰治

出席者数: 42名および委任状27名(定足数40名)

議事録:

以下の項目について審議した。

1. 2014年度会計報告が承認された。

【2014年度会計報告(決算)】

収入		支出	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
会費等		会報印刷費	183,216
個人	267,000	委員会費	100,000
賛助	10,000	人件費	10,000
広告料	135,000	通信費	25,674
前年度繰越	243,452	会議費	—
		交通費	—
合計	655,452	雑費	19,051
		次年度繰越	317,511
		合計	655,452

別途会計: ICPA 特別基金から陽電子科学研究交流会に10万円を補助金として支出(2014年度残額: 1,708千円)。

なお、収支決算書および支出領収書等関連資料により監事の堀史説氏(2015年6月8日付)、和田健氏(2015年5月28日付)により監査を受け、承認されたものである。

2. 2015年度会計経過が報告された。

【2015年度会計報告(2015.11.27現在)】

科目		金額(円)		科目		金額(円)	
会費等		会報印刷費	245,970	委員会費	100,000	人件費	—
個人	444,000	通信費	36,640	会議費	—	交通費	28,004
賛助	40,000	雑費	64,600	繰越見込	641,297		
広告料	215,000	支出合計	1,116,511				
前渡金							
編集委員会	100,000						
前年度繰越	317,511						
収入合計	1,116,511						

別途会計: ICPA 特別基金から陽電子科学研究交流会に10万円を補助金として支出(2015年度残額: 1,608千円)。

3. 2015年度活動が報告された。

- 会報4号, 5号の発行
- 会報のJ-GLOBALおよびJDreamIIIへの登録
- 関連研究会・会議の共催(2件)・協賛(4件)
- 第8回陽電子科学研究交流会(2015年8月30日から9月1日, 仙台市秋保温泉)

4. 2016年度活動計画が以下のように示され承認された。

- 第9回陽電子科学研究交流会(幹事: 京都大学)

- 会報「陽電子科学」の発行(3月と9月)
 - 14th International Workshop on Slow Positron Beam Techniques and Applications (SLOPOS14)の共催
 - 第53回アイソトープ・放射線研究発表会の共催
 - その他の協賛
5. 2016年度予算案が承認された。

【2016年度予算】

収入(円)		支出(円)	
会費等		会報印刷費	250,000
個人	450,000	編集・刊行委員会	100,000
賛助	40,000	人件費	20,000
広告料	—	通信費	50,000
前年度繰越	640,000	会議費	10,000
		交通費	10,000
合計	1,130,000	雑費	50,000
		予備費	640,000
		合計	1,130,000

別途会計: ICPA 特別基金から陽電子科学研究交流会に10万円を補助金として支出予定。

6. 陽電子関連の国内・国際会議が紹介された。

- 第53回アイソトープ・放射線研究発表会(東大, 2016.7.6-8)
- SLOPOS14(松江, 2016.5.22-27)
- PPC12(ポーランド・ワルシャワ, 2017.8.28-9.1)
- PSD17(ドイツ・ドレスデン, 2017.9.3-8)
- ICPA18(米国・オーランド, 2018)

2015年第2回日本陽電子科学会理事会

日時: 2015年11月26日(木) 13:00から14:00

場所: 京都大学原子炉実験所 図書棟会議室

出席者: 長嶋 泰之(議長代理), 河裾 厚男, 鈴木 良一, 荒木 秀樹, 島津 彰, 永井 康介, 平出 哲也, 伊藤 賢志(事務局)

欠席: 白井 泰治, 藤浪 真紀, 小林 慶規

議事録:

1. 2015年度予算状況および当該年度の決算案を確認した。
2. 2016年度活動計画と予算案を承認した。
3. 事務局より編集委員会の活動報告がなされた。
4. 事務局より第8回陽電子科学研究交流会の開催報告がなされた。
5. 2015年度奨励賞授与式の式次第を確認した。
6. 企業技術者の陽電子科学分野へのアクセスに関する当学会のあり方について議論した。
7. その他, 以下の項目について確認した。
 - (1) 2015年度総会
 - (2) 会員の入退会動向および会費納付状況
 - (3) 第五期に向けた役員改選の手順

インフォーマルミーティングのご案内
以下の要領でインフォーマルミーティングを第53回アイ

ソトープ・放射線研究発表会期間中に開催予定です。なお、旅費は支給できませんのでご了承ください。

日 時: 2016年7月7日(木) 昼頃
場 所: 東京大学農学部 弥生講堂アネックス

WEB とメーリングリストについて
日本陽電子科学会の WEB アドレスは
<http://www.positron-science.org/>
です。日本陽電子科学会のメーリングリストへの投稿を
ご希望の方は、
日本陽電子科学会 事務局 (office@positron-science.org)
までご連絡ください。

2016 年度会費納入のお願い

2016 年度の会費 (4,000 円) をご納付ください。また未納
分 (2014 年以前は 2,000 円) もある方はあわせてお振込
ください。なお、学生会員は免除 (無料) です。

郵便局からの振込先: ゆうちょ銀行
口座記号番号: 00150-5-743474

振込み手数料金が発生した場合は会員のご負担とさせ
ていただき、また領収書は振替払込請求書兼受領証をもっ
て代えさせていただきます。(請求書添付の赤い振込票を
ご利用の場合は手数料が免除されます) ご不明な点は事
務局までお問い合わせください。銀行振込をご希望の方
は、

銀行名: ゆうちょ銀行
店名: 0一九店 (ゼロイチキョウ店)
口座番号: 当座 0743474
口座名義: 日本陽電子科学会

にお振込みください。

会員拡充と情報更新のお願い

陽電子科学に関心のある、大学・研究所・企業などの研究
者、技術者の方にお声かけください。入会にあたっては、
所定申請書に必要事項をご記入の上、事務局までお送り
ください。詳細は当会 WEB サイトにてご確認ください。
また、所属や電話番号、電子メールアドレスなど連絡先
の変更は事務局までご連絡ください。学生会員の担当教員
におかれましては卒業・終了時の更新について連絡をお
願い致します。

入・退会情報 (2015 年 8 月-2016 年 2 月)

【入会者】

会員番号	氏名	所属	種別	入会日
0147	宮下 敦巳	原子力機構	正	'15/10/26
0148	市川 和秀	京大	正	'15/11/24
0149	趙 陽九	KRISS	正	'15/12/21
0150	鈴木 一彦	長岡技科大	正	'16/1/4
S0103	上田 大介	京大	学生	'15/8/11
S0104	林田 知子	立命館院	学正	'15/8/11
S0105	西山 純平	東北大院	学生	'15/8/11
S0106	村野井 友	東北大院	学生	'15/8/11
S0107	武田 裕介	茨大	学生	'15/8/11
S0108	相羽 誉礼	東工大院	学生	'15/12/11
S0109	周 健治	東大院	学生	'15/12/21
S0110	石本 和聖	長岡技科大	学生	'16/1/31

【退会者】

会員番号	氏名	所属	種別	退会日
0133	柳下 宏	産総研	正	'15/12/10
0119	平 義隆	産総研	正	'15/12/10
0138	中村 哲浩	中村鉄工	正	'15/12/10
0040	篠原 紀幸	山口大	正	'15/12/10
0131	小澤 亮介	旭化成	正	'15/12/28
0132	小栗 和幸	金沢工大	正	'16/1/25
0129	久保 康則	日大	正	'16/1/26
0059	土肥 謙次	電中研	正	'16/2/8
S0086	武藤 康政	京大院	学生	'15/3/31
S0087	野 日香理	京大院	学生	'15/3/31

日本陽電子科学会 会則

平成 20 年 8 月 13 日制定

第 1 章 (総 則)

- 第 1 条 本会は日本陽電子科学会 (英文 : Japanese Positron Science Society, 略称 JPOSS) と称する。
- 第 2 条 本会は陽電子に関する物理, 化学, 生物およびその他の分野, ならびに陽電子の応用に携わる研究者・技術者相互の連絡をはかり, 陽電子の科学や利用技術の発展に寄与することを目的とする。
- 第 3 条 本会は前条の目的達成のため次の事業を行う。
- (1) 研究発表会, 討論会, 講演会および講習会等の開催
 - (2) 国際研究集会の開催
 - (3) 刊行物の発行
 - (4) その他本会の目的達成に必要な事業
- 第 4 条 本会は事務局を設置し, その所在地は理事会で定める。理事会において事務局担当を役員から 1 名選任し, 当該担当は本会の運営に関する事項などに当たる。
- 第 5 条 本会に必要な地に支部を置き, また専門分野の必要に応じて部会及び委員会を置くことができる。支部, 部会及び委員会に関する規定は, 別に定める。

第 2 章 (会 員)

- 第 6 条 本会は本会の趣旨に賛同する会員で構成される。本会の会員は正会員, 学生会員, 賛助会員および名誉会員の 4 種とする。
- 第 7 条 本会の会員は, 所定の会費を納めるものとする。会費の滞納者には, 未納通告を行い, 当該会員へのサービスを停止することができる。
- 第 8 条 本会の会費年額は, 正会員 4,000 円, 賛助会員 1 口 10,000 円とする。学生会員および名誉会員は会費を免除する。
- 第 9 条 本会に入会を希望するものは, 所定の様式により入会を申請し, 理事会の承認を得なければならない。退会を希望するものは書面でその旨申し出ることとする。
- 第 10 条 会員が次の各号に該当するときは, 会長は理事会で承認後, 総会において除名の決議が行われた会員を除名することができる。
- (1) 会費を滞納した会員
 - (2) 本会の名誉を傷つけた会員
- 第 11 条 本会に特に功績のあったものを, 理事会は推薦し, 総会の承認により名誉会員とすることができる。

第 3 章 (役 員)

- 第 12 条 本会には次の役員を置く。
- 会長 1 名, 副会長 若干名, 理事 若干名, 監事 2 名, 顧問 若干名
- 第 13 条 会長, 副会長は理事会が推薦し, 総会で決定する。
- 第 14 条 会長は本会を代表し, 会務を総理し, 総会および理事会を召集してその議長となる。副会長は会長を補佐し, 会長に事故あるときはその職務を代行する。
- 第 15 条 理事は会員の中から次年度会長が推薦し, 総会で決定する。
- 第 16 条 監事は総会で正会員の中から選出する。
- 第 17 条 顧問は次年度会長が推薦し, 総会で決定する。

第 18 条 監事は会務および財産の状況を監査し, 理事会に出席して意見を述べるができる。

第 19 条 役員の任期は 2 年とし, 1 月 1 日から翌年の 12 月 31 日までとする。ただし, 再任をさまたげない。

第 4 章 (会 合)

- 第 20 条 総会は毎年 1 回これを開く。その他, 会長が必要と認めるとき, 監事の請求, または会員の 3 分の 1 以上の請求があったときに会長が召集する。
- 第 21 条 総会は全会員の 4 分の 1 以上の出席をもって成立する。ただし委任状を含む。
- 第 22 条 総会では次の事項を決議する。
- (1) 会則の変更
 - (2) 役員の選任
 - (3) 事業計画および収支予算
 - (4) 事業報告および収支決算
 - (5) その他理事会が必要と認める事項
- 第 23 条 総会の議事は出席会員の過半数で決し, 可否同数の場合は議長が決する。
- 第 24 条 理事会は会長, 副会長, 理事をもって構成され, 会長が随時これを招集し, 会の運営にあたる。

第 5 章 (資産および会計)

- 第 25 条 本会の資産は会費ならびに本会の目的を達するため寄付された金員および物件, 事業に伴う収入, その他雑収入とし, その管理は総会の定めるところによって理事が行う。
- 第 26 条 本会の事業年度は 1 月 1 日に始まり, 12 月 31 日に終わる。

第 6 章 (解 散)

第 27 条 本会の解散と, それにともなう残余財産の処分は理事会および総会の議決を経るものとする。

第 7 章 (会 報)

- 第 28 条 会報には研究関連記事, 学会等記事, 本会からの案内, その他本会が適当と認めた事項を掲載する。
- 第 29 条 会報の編集を担当する役員を 1 名選任し, 編集委員長として編集に関する事項などに当たる。また, 会報の刊行を担当する役員を 1 名選任し, 刊行委員長として刊行に関する事項などに当たる。なお, 両担当は理事会で選任する。

(付 則)

本会則は平成 21 年 1 月 1 日からこれを施行する。
陽電子科学研究会会員は平成 21 年 1 月 1 日に本会の会員に自動的に移行する。

(平成 23 年 12 月 3 日改訂)
(平成 24 年 12 月 1 日改訂)
(平成 25 年 12 月 7 日改訂)
(平成 26 年 11 月 29 日改訂)

日本陽電子科学会会報「陽電子科学」(以下、会報と略す)は、編集委員会(以下、委員会と略す)の依頼による寄稿と会員からの投稿からなる。依頼による寄稿は会員外による場合も認める。掲載の採否は委員会決定する。内容および表現などについて委員会が修正を依頼することがある。

原稿は原則として TeX スタイルでの電子データ作成とするが、WORD ファイルの電子データでもよい。両スタイルファイルは本会 WEB ページからダウンロードして利用することができる。著者が TeX スタイルの原稿を作成できない場合には委員会において TeX スタイルに変換する。WORD ファイルで作成する場合は、1 頁目に「題目(和文, 英文)」「全著者名, 所属および住所(英語表記も含める)」、代表著者の連絡先(住所, TEL/FAX, 電子メールアドレス)」、2 頁目に「和文要旨(200 字程度)」、英文要旨(150 Words 程度)」、キーワード(和文および英文で 3 個以上 9 個以下)」、3 頁目から本文、参考文献、表、図のキャプションと続き、最後に全著者の紹介(写真(JPEG ファイル)および略歴など)の順番で記述する。TeX スタイル、WORD スタイルいずれの場合においても、図は一つの図毎に PDF 形式あるいは EPS 形式のファイルとして別途作成し、本文とともに投稿する。また、原稿提出時に著作権譲渡に関する承諾および掲載図などの掲載許可などに関する「記事出版に関わる確認書(以下、確認書と略す)」を添付する。本会指定の書式である「確認書」は本会 WEB よりダウンロードできる。会報の刷上りはモノクロ印刷であるが、WEB 版にはカラー版での掲載が可能である。

1. 主な内容と執筆要領

- (1) 巻頭言(刷上り 1 頁)

委員会から依頼された会員がその所信を述べる。
- (2) 入門講座(刷上り頁に制限はつけない)

陽電子科学の初学者の啓蒙のため、各研究の説明および最近の研究を平易に説明する。
- (3) 最近の研究から(刷上り 4 頁-6 頁)

陽電子科学などがかわる最近の進歩が著しい特定の主題について、現在の研究状況とその内容を専門外の会員にも理解しやすいよう紹介する。
- (4) 総説(刷上り 10 頁以内)

陽電子科学などがかわる特色ある研究を中心として、分野全般にわたる最近の進歩とその背景を、広い視野から総合的に解説する。
- (5) 実験技術紹介(刷上り 1 頁-2 頁)
 - 1) 広い範囲の人々にとって興味のある実験法について、その原理と技術上の問題点、それが貢献できる分野などを紹介する。
 - 2) ある実験の目的のための有効な知識、コツなど、普通の解説書には表しにくいような記事。
- (6) 特別企画(別途指定)
 - 1) 退職記念講演、講座、座談会、特定分野の特集などは委員会が随時企画する。
 - 2) 内容と執筆要領はその都度委員会が定める。
- (7) 受賞記事(刷上り 4 頁-6 頁)

本会奨励賞受賞者および会員が授与された賞に関する業績記事。
- (8) 追悼(刷上り 1 頁以内)

陽電子科学への貢献の大きかった会員、名誉会員、国内

外の陽電子科学研究者に対する追悼記事。執筆者は委員会から依頼する。

- (9) 研究室紹介(刷上り 1 頁-2 頁)

陽電子科学関連の国内外の大学・研究機関・民間企業の研究グループの紹介記事。執筆者は委員会から依頼する。
- (10) 国内外の陽電子科学関連集会の案内記事
 - 1) 国内で開催した陽電子科学関連学会および研究会などのプログラムの紹介
 - 2) 国内外の陽電子科学関連学会および研究会などの開催案内
- (11) 共同利用施設からのお知らせ

陽電子科学関連の全国共同利用施設などからの案内記事。
- (12) 国内外の陽電子科学関連学会の印象記(刷上り 1 頁)
 - 1) 国外の陽電子科学関連学会・研究会などの参加者にその学会印象記事。執筆者は委員会が依頼する。
 - 2) 陽電子科学研究交流会の印象記事。執筆者は委員会が依頼する。
- (13) 会員からの声(別途指定)
 - 1) 広く会員にとって関心があると思われる話題についての個人的な意見や感想を述べた投書を掲載する。
 - 2) 掲載の採否は委員会の判断によるが、その内容に関する責任は投稿者が負う。
- (14) 事務局からのお知らせ
 - 1) 総会、理事会などの議事録。
 - 2) 入会、退会者記事。
 - 3) その他の本会運営に関する案内記事。

2. 原稿作成上の注意

- (1) TeX スタイルファイルあるいは WORD スタイルファイルを利用して原稿を作成する。依頼原稿は依頼した編集担当委員宛に電子メールなどを利用して電子データで提出する。その他の原稿は第 4 節の問合先に提出する。
- (2) 指定頁数を大幅に超過した場合には原則として短縮を求めることがある。目安として 2400 字が刷上り 1 頁となる。簡単な図の場合には、600 字と考えるとよい。
- (3) 本文は黒色、横書きとし、専門用語以外は原則として常用漢字・新仮名づかいを用いる。接続詞と副詞の表記は原則としてひらがな書きとする。不必要な外国語の使用は避ける。句読点は、「,」「.」に統一する。
- (4) 単位は原則として SI 単位を用いる。数字と単位の間は半角を空ける。単位は「ms⁻¹」のように表記する。
- (5) 原稿の言語は日本語とするが、委員会が認める場合には英語でもよいとする。日本語で書いた場合には、英数字はすべて半角とする。
- (6) 数式には (1), (2)... と通し番号を文末につけ、記述する。数式の参照は式 (1) などとする。物理量を示す定数記号と変数記号はイタリックとする。
- (7) 表は別紙に書き、表 1, 表 2... と通し番号をつけ、説明文、表を続ける。表の参照は表 1 などとする。他の文献から引用する場合には引用文献を記載する。
- (8) 図および写真には図 1, 図 2... と通し番号をつける。図と写真の参照は、それぞれ図 1 と写真 1 などとする。一つの図毎に別紙に書き、本文とは別に PDF 形式あるいは

EPS形式で作成する。また、図説としてキャプションは本文にまとめて記す。他の文献から図を引用もしくは転載する場合には、必ず引用文献を記載する。

(9) 節、項(小節)、目(小々節)の参照は、それぞれ第1節、第1.1項、第1.1.1目とする。

(10) 参考文献

1) 文献引用の範囲は、それが必要かつ十分であるように留意する。私信のような一般の人が入手しにくい文献は引用することをできるだけ避ける。

2) 文献の引用は Beckham,¹⁾ Coleman,^{2,3)} Lewis⁴⁻⁶⁾ などのように通し番号をつけ、論文の末尾に一括して示す。1つの番号には1つの論文が引用されることが望ましい。

3) 参考文献の書き方は著者名、誌名、巻、年、頁の順とする。著者名は原則として省略しない。巻数はポールドの指定をする。雑誌名の省略および欧文の書き方は AIP の方式に準ずる。単行本の書名のうち日本語のものは「」(カギ括弧)でくくり、欧文のものはイタリックで表記する。日本語の場合は人名、書名とも省略しない。次の例の形式にならう。

1) 谷山雅夫, 福田博: 日本陽電子科学会会報 3 (1993) 23.

2) H. Goto, A. Baba, B. Smith, C. Dormel: Phys. Rev. Lett. 64 (1990) 235.

3) 小林祐輔: 「陽電子のフロンティア」(科学同人, 2011) p.293.

4) G. Smith, J. Thomas: *Positron & Positronium Physics* (ADG Academic, 2001) p.111.

5) <http://chemistry.ttf.tohzai-u.jp/gabcb111/index.html>

(11) 著者校正は必ず1回以上行い、それにより内容および表記について著者が最終的な了解をしたと判断する。

(12) 別刷は作成しない。

(13) 他の文献から転載または修正して転載する場合には、著作権の問題があるため、必ず出典を明記し、著者自身が著者および発行者の書面による許可(自著の場合にも必要)を得ること。なお、著作の代表者は掲載許可に関する「確認書」を提出すること。

(14) 謝辞が必要な場合は原稿作成にかかわるものに限定し、本文最後に簡潔に記載する。

3. 著作権

(1) 会報に掲載された寄稿などの著作権

会報に掲載された寄稿・投稿など(以下寄稿などという)の著作権は日本陽電子科学会に帰属する。著作の代表者は著作権譲渡に関する委嘱に関して、「確認書」を提出すること。

(2) 寄稿などの利用

寄稿などの全部または一部を他の出版物に転載し、翻訳し、あるいはその他の利用をしようとする者は、本会の承認を得、またその寄稿などが会報に掲載されたものであることを明記(出所明示)しなければならない。

4. 問合せ先

〒305-8565 つくば市東1-1-1 つくば中央第五
産業技術総合研究所 計測標準研究部門 伊藤賢志 気付
日本陽電子科学会 編集委員会
E-mail: editor@positron-science.org
TEL/FAX: 029-861-4622, <http://positron-science.org/>

(平成25年9月2日改訂)

(平成25年12月23日改訂)

編集後記

第二号から編集委員会のメンバーに加えて頂きました。今回は第六号なので、これまでで五回お手伝いする機会がありました。毎回思いますが、会報「陽電子科学」は、内容が充実していることはもちろんですが、見た目も驚くほどきれいです。研究室の隅に山

積みになっているどこかの学会誌と比べて、とてもお徳感があると思います。最後になりますが、執筆、査読を担当された先生方には、この場を借りてお礼申し上げます。(KS)

日本陽電子科学会

役員（第四期：任期 2015 年 1 月 1 日より 2016 年 12 月 31 日まで）

会長 白井 泰治（京大院工）

副会長 長嶋 泰之（東理大理） 藤浪 真紀（千葉大院工）

理事 荒木 秀樹（阪大院工） 伊藤 賢志（産総研） 河福 厚男（原子力機構） 小林 慶規（産総研）

島津 彰（日東電工） 鈴木 良一（産総研） 永井 康介（東北大金研） 平出 哲也（原子力機構）

顧問 義家 敏正（京大原子炉） 兵頭 俊夫（KEK） 監事 堀 史説（大阪府立大） 和田 健（KEK）

会報編集委員会

委員長 藤浪 真紀 副委員長 永井 康介

伊藤 賢志 井上 耕治 大島 永康 佐藤 公法 水野 正隆 土田 秀次

会報刊行委員会

委員長 伊藤 賢志 副委員長 岡 壽崇

大島 永康 オローク ブライアン 佐藤 公法 永井 康介 藤浪 真紀 和田 健

学会事務局 〒305-8565 つくば市東 1-1-1 中央第五 産総研 物質計測標準研究部門 伊藤賢志 気付

E-mail: office@positron-science.org, TEL/FAX: 029-861-4622

陽電子科学 第6号(2016)

発行人 白井 泰治

発行所 日本陽電子科学会 〒305-8565 つくば市東 1-1-1 中央第五

印刷所 株式会社 芳文社 〒194-0037 東京都町田市木曽西 2-3-14

印刷日 2016 年 2 月 25 日

発行日 2016 年 3 月 1 日（年 2 回発行）

頒 価 3,000 円（会員の購読料は会費に含む）

本誌記事の無断複写等を禁じます。